

佛圓議員

Q 両中学校のクラブ活動の指導者について

A 町内外のボランティアなどにより補う（加藤教育部長）

A 指導者の確保については、人事の際に配慮を求めているが、教職員は担当教科により配置されるので、それぞれのクラブ指導経験者を要することは非常に困難。今後も町費負担指導者の派遣、町内外のボランティアなどにより補うよう努めていく。

また、学習指導要領の完全実施で武道が必修となるが、今の段階では両中学校とも柔道を考えている。

Q 熊中には剣道部、東中にはサッカー部があるが、現在未経験の先生が指導されている。この改善策は。

また、平成24年からは武道が必修科目になるが、剣道の先生は必要ではないか。

佛圓議員

Q 書道科の指導者について

A 低学年以外でも専門家による書写授業を実施（林教育長）

A 本年5月から小学校1、2年生に書道科を開設した。講師には小学校低学年に対して指導ができ、国語科及び書道科の教員免許証を有する人材が採用でき、担任とともに授業を行っている。

なお、3年生からの書写授業には、県の制度を利用して町内在住の書道指導者の助力を得ている。

Q 筆の都らしく、町内小・中学校の書道、書写を指導する講師を2名程度常勤にしているか。



小学校低学年の書道科のようす

伊藤議員

Q 中学校の弁当給食について

A 再度アンケート調査を実施する（加藤教育部長）

A 熊野町の弁当給食は昭和59年に、全国でも稀な自由選択方式で始まり、最近小学生の約75%が、この給食を食べている。

中学校給食の導入については、平成15年に小学校6年生と中学校1、2年生を対象に導入希望のアンケート調査を行った。児童・生徒のみの希望は25%、家庭で保護者相談の上回答してもらったものも40%で半数に満たなかったという経緯がある。再度、アンケート調査を実施したい。

Q 小学校同様、中学校にも弁当給食を導入することはできないか。

伊藤議員

Q 交番の増設と空き交番対策について

A 交番の増設等を要望していきたい（立花民生部長）



熊野・阿戸地域を管轄する熊野交番

Q 熊野町の規模で交番が1カ所というのは少なすぎないか。また、空き交番対策についてはどうか。

A 熊野交番は本町と安芸区阿戸町を管轄しており、面積では県内155交番のうち14番目、人口は10番目、交通事故は31番目、刑法犯認知件数は51番目となっている。町としても海田警察署を通じて、広島県警察本部へ増設等を要望していきたい。

空き交番の対策としては、平日の10時から16時45分まで交番相談員を月に20日間、常駐されている。しかし、緊急の場合には110番通報をお願いしたいと、海田警察署から協力依頼がある。

Q 国民健康保険証のカード化

A 平成23年10月の一斉更新時を予定（清代住民課長）

Q 国保における被保険者証のカード化について、どのように考えているか。

A カード化を実施していない市町は、県内で本町を含め5市町となっている。

コスト面や社会保障カードの動向を注視し、実施時期を検討しているが、来年度電算システムの更新を予定しており、平成23年10月の被保険者証の一斉更新時からカード化にするよう現在準備を進めている。



伊藤議員

白築議員

Q 安心安全な町づくり

A 住民との協働による活動などに努めていきたい（広田生活環境課長）



公用車等に青色回転灯を搭載

Q 近隣の市町などで犯罪の報道を目にする。弱者が被害に遭わない対策が必要ではないか。

A 広島県警察本部を中心に、減らそう犯罪、県民総ぐるみ運動を展開している。本町でも、平成14年の368件に対し、平成21年には半減しているが、平成20年に比べると44件増加している。

こうした中、防犯まちづくり協議会による啓発活動をはじめ、青色回転灯搭載車によるパトロール、また二戸一灯運動や防犯ボランティアの皆さんによる下校時の見守り活動などを行っている。引き続き住民との協働による活動などに努め、犯罪の減少に取り組む。